

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 6月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600046		
法人名	有限会社 彩寿		
事業所名	グループホーム 彩寿		
所在地	苫小牧市桜木町2丁目2番20号 (電話) 0144-71-3400		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年6月22日	評価確定日	平成21年7月15日

【情報提供票より】 (21年 5月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 5月 19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算12.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000円		その他の経費(月額)		光熱費 19,000円
	有(47,000円)				暖房費(10～4月) 9,000円
保証金の有無(入居一時金含む)	無		有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	300円	昼食	400円	
	夕食	400円	おやつ	100円	
	または1日当たり			円	

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.9歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神谷病院、山崎歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に建てられて、まだ新しく、木の温もり、香りが漂うホームです。訪問者のためにゆったりとした駐車スペースも安心感を得ることができます。内部の共用空間の広々とした開放感もこのホームの特徴といえます。今年5月には念願のスプリンクラーも完備することができ、家族の安心と信頼、また人手の少ない夜勤を担うスタッフにとっても大きな安心となっています。また、利用者、家族、運営者とスタッフが一体となった大きな家族としてみる事ができます。開設以来のベテランスタッフ、看護師などを擁するグループホーム彩寿の今後に大きな期待が寄せられています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の地域とのつきあいや介護計画の見直し、更には災害対策について部分的取り組みが行なわれていますが、その他の項目に関しては改善の方向で取り組みがあるものの十分ではなく、更なる改善に向けた行動が期待されます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価で得られた課題や外部評価に対する取り組みの姿勢は評価できますが、計画的な改善への着手が必要と思慮いたします。例えば改善計画シートの活用により、改善の優先順位、目標、改善に向けた内容、着手に要する期間などをシートに記入しながら着実に実践されるよう期待します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの運営などを懇切丁寧に説明しながら、2ヵ月毎の会議開催が行なわれていましたが、メンバーの任期満了に伴う人選などで本年に入ってから開催に支障をきたしています。早期に定例化した開催が望まれます。また、自己評価や外部評価で明らかとなった改善課題を会議で開示しながら、改善への取り組みのモニター役を担っていただくことも大切であると思慮いたします。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族と管理者並びにスタッフ間では、自由闊達な意見が飛び交う関係がとて良い状況にあります。運営推進会議の議事録上にも表れています。また、「家族会」も設けられて運営に関する意見交換など親密な関係が構築されるものと期待されます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の理解をいただきながら、徐々にお付き合いの輪が広がっています。小学生や保育園児との交流に加え、ホームの行事「夏祭り」には近隣住民も参加していただくなど、地域に開かれた存在となっていることは間違いがありません。これからは地域の住民に対し、認知症に関わる相談や指導を行なうなど、地域貢献も大いに期待されることです。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域にあって、利用者の暮らしが豊かになるように日々の実践を定めた理念は、玄関ホールやリビング内に掲げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの開設当初から勤務するベテランスタッフが中心となり、理念をスタッフ全員で共有を図りつつ、実践に向けて日々努力が継続されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が町内会の会議に出席をするなど、近年、町内会を通じた地域住民との付き合いの機会が増えつつあります。これからも行事などに積極的に参加しながら、地域との付き合いの拡大が期待されます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は、自己評価及び外部評価によるサービスの質の向上をスタッフに伝えるだけでなく、運営推進会議や会報を通して家族等にも周知するなど、意義と活用を具体的に伝えながら、スタッフと共に改善への取り組みが行なわれています。		

苫小牧市 グループホーム 彩寿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年までの運営推進会議では、ホームでの取り組みが詳細にメンバーに伝えるなど、会議内容の充実が図られていますが、メンバーの任期満了による全面的な変更と後任者の人選などで支障をきたし、円滑に会議開催がされていません。	○	町内会や家族会、また市の担当者の理解をいただいて、早期にメンバーの人選と会議招集への取り組みが求められます。また、メンバーの任期も柔軟に扱い、部分的なメンバー人選にとどめる等、会議の円滑な開催への取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、利用者及び家族間にいたる些細なことでも相談、また情報を提供するなど、連携を図りながらサービスの質の向上に努めています。今後はホームの行事に際しても通知して参加を要請するなど、より一層の連携への取り組みを期待します。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行されている「彩寿通信」は、ホームの要点を上手にしかも読みやすい大きな字で示しながら家族のもとに送られています。また、金銭に関わる報告、家族の来訪時や電話を利用した口頭の報告は日常的に行なわれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録でも確認されますが、家族からの率直な質問がたくさんあり、運営者は懇切丁寧な回答をしながら、ホーム運営に反映するようにしています。また、新たに作られた家族会とは、風通しの良い関係作りがされており、家族の意見を聞きながら運営に役立てています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	二つのユニット間では異動はされていません。新人スタッフが採用された場合には、開設以来のベテランスタッフが利用者一人ひとりの特徴などを的確に知らせながら、早期に馴染みの関係が作られるよう努めて、利用者への影響の軽減が図られています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの資格取得には、シフトの変更や受講等の経費の一部負担も行なうなど、スキルアップには前向きな取り組みが見られますが、内部研修の計画的な開催、また、外部研修の受講が少ない状況下にあります。	○	スタッフの現状のスキルに呼応した幾多のメニューを考慮しながら、計画的に受講機会をつくるような取り組みを期待します。また、内部研修も毎月のカンファレンスに合わせて定期的な開催を検討するなどの取り組みも大切と思慮します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は親しい同業者との情報伝達などを行っており、必要性を感じながら将来に亘って交流を行いたいという構想はあるものの、現状では実践されてはいません。	○	近年、地域グループホーム協議会でも同業者間の交流が取り上げられており、管理者ばかりでなくスタッフ間の交流に発展しながら、サービスの質の向上が図られている現況を考慮して、ネットワーク作りやスタッフの相互訪問など前向きな取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して、スタッフが利用者と面談するなどしています。入居後の住み替えによる影響軽減のため、利用者の経歴などを十分に理解したうえで早期にホーム生活に馴染めるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の症状が進行する中で、常に試行錯誤を繰り返しながら利用者の意向把握及び利用者、スタッフが支え合う場面作りを模索しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ある程度自己主張が出来る利用者の場合は、スタッフとの会話の中から意向や思いの把握が容易ですが、困難な場合が多く利用者本位で支援することが多くなってきています。会話の中では食べ物への意向や思いが語られる場面が多いようです。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を細部まで利用しながら介護計画が作られています。利用者と家族からの要望を基にアセスメントを行ない計画の素案が出来た段階では家族にも参加していただいています。素案を基にカンファレンスを経て介護計画が完成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一般的には6ヵ月の見直しとされていましたが、最近では3ヵ月毎の見直しも導入されています。計画作成担当者へは細やかなモニタリング情報が寄せられています。この見直しにも家族や利用者の意見を聞くこととして現状に即した新たな介護計画が作られています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況などにより通院の際の送迎、また、個人的な買物、美容院などは家族に代わってスタッフが同行するなどしています。また、訪問看護ステーションの活用による医療連携など柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の全員が、かかりつけ医を有しており、それぞれの受診に対して適切な医療が受けられるよう支援が行なわれています。歯科治療に際しては協力歯科医への通院治療のほか、訪問歯科医も利用して利用者にとって便宜を図るようにしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居に際して重度化に対する対応指針が説明され、利用者と家族の同意をいただいています。また、ホームの会報「彩寿通信」でも取り上げ概要説明をするなど共有に努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや尊厳を損ねない、また、プライバシーの確保などについては、日頃スタッフ同士で確認をしながら実践しています。夜間の一人勤務の際のプライバシー確保は十分であるか等、常に問題意識を持ちつつ徹底を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の介護度に比較して、認知度の低下が著しい状況の中で、利用者の容態にも変化が生じています。スタッフは利用者の精神面や身体的な変化の中、少しでもその人らしい暮らし、良好な状態で維持できるよう懸命の努力が重ねられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の心身の状況により、賑やかな食卓、また、静かな食卓など二分されていますが、スタッフの雰囲気づくりの言葉掛けで楽しい食事風景を見ることが出来ます。食器の後片付けやスタッフと肩を並べての食器洗いなども垣間見ることが出来ました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午前と午後の2回の時間帯が設定されて少なくとも週2回の入浴を目標としています。以前は夜間入浴もありましたが現在では昼間が標準化されているようです。大きな浴槽や広い洗い場、手摺りなど利用者が楽しく入浴される配慮が行き届いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は自己のペースを守りつつ静かな生活を過ごしています。ちぎり絵の得意な利用者の作品がリビングの壁を彩り、ホーム内での楽しみごととなっています。時折り小学生、保育園児との交流やボランティアの方々の訪問でゲームやコーラスなどで気晴らしも行なわれています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ショッピングセンターでの買物、いちご狩りなど外出の機会がありますが、日常的な散歩などの回数はあまり多くありません。	○	季節や天候に左右される散歩ですが、利用者の気晴らし、また、体力維持のため是非毎日の散歩を恒常化するよう取り組みを期待します。幸い近くには大きな公園もあり、歩ける利用者、車椅子の利用者共々、日向ぼっこへの取り組みを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、ユニット間、また、居室は常に開放されています。スタッフは利用者の動向をそれとなく見守りながら鍵をかけない支援をしています。防犯上、夜間の8時から翌朝の7時頃までは施錠しています。		

苫小牧市 グループホーム 彩寿

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	念願のスプリンクラーが5月に設置完了しています。消防署の協力をいただいて年2回の火災避難訓練も夜間想定を加えながら実施しています。地域住民の協力については運営推進会議でも話し合われたことがあります但し具体化はされていません。	○	火災の際、特に夜間を想定した場合、近隣の住民協力は欠かすことが出来ず、日頃より協力がいただけるような理解と働きかけが必要であり、その取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者により栄養バランスが加味されたものを調達して、スタッフにより味付けや刻み食、とろみなど手を加えて提供されています。水分摂取量は記録されて確保されています。行事食のほか、スタッフ独自の手料理も計画されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ロビーから、リビング、食堂にいたる木の香りがする共用空間が、家族を含めた訪問者を和ませます。2階の談話スペース、1階に設けられた地域交流室なども、多目的な利用が容易です。厨房は対面式でスタッフと利用者の会話が弾む光景を見ることができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、壁に埋め込みのクローゼットがあり、収納が良く居室を広く使える配慮がされています。ベット、家具、テレビなどが持ち込まれ、心地よい安心の空間が出来上がっています。		

※ は、重点項目。